

幼児の健康保育（三）

お茶の水女子大學助教授
愛育研究所員

平井信義

五、視診と、病氣の早期発見

幼稚園・保育所が、病氣の媒介所であつてはならぬこと、それのみが、子供たちの健康の中心になつて欲しいことは、既にいく度か述べました。幼稚園・保育所における子供たちの生活から打樹てゝ、だんだんと家庭に於ける保健の態度を改良することが出来ればと、願ふ心も又止み難いものであります。

その第一着手は、朝の視診に始まります。朝の視診は決して忘れてはならぬものであります。之を忘れては、その日の保育は始まらぬといつてもよいでせう。保育が始まつて子供たちがさんざん接觸したあとから、太郎ちゃんが百日咳らしい咳をしている、花子ちゃんの右の耳の下がふくらんでいる——と氣付いて嫌いでも、もう遅いのであります。數日後には咳を始める子供たちが三人・四人と現れて來ることでしょ

う。二ヶ月後にはお多福風邪で休む子供が出るでしよう。ついには次々と病人が出て園を閉鎖しなくてはならぬために陥るでしよう。こうなつては保育も何もありません。大きな不安であります。失態であります。

「そんなにおどしてはいけない」と仰しやるかも知れません。「幼稚園や保育所にそんな大きな責任を負わされては困る」と仰しやる方もありましよう。然し健康保育をそこまで厳しく考へなくては、決して成果を望むことが出来ないから申すのであります。傳染病の豫防を考へないで、可愛い子供たちを集めることをするならば、それは罪悪にも等しいものではないでしようか。幼稚園保育所を始める出發點に於てこのことは考へていなければならぬ筈です。殊に色いろな傳染病が流行している時には萬全を期さなければなりません。子供が集まる處にはこの傳染病が舞込む危険があることをいつも考えていいなくてはならぬのです。後に述べますが幼児期に於て、いろいろな傳染病で死ぬ子供の數は、實に多いのであり

ます。

「視診しようと思うが、なかなか面倒で出来ない」——こう云ふ聲もさかんにきこえます。成程、視診は面倒なものにちがいありません。朝の大切な時間を、かなりつぶすことでもありますよう。殊に一人で多勢の子供を持つことを餘儀なくされている保母さんには、本當に無理だということも十分わかります。

然し、明日の保育案を立てない保母さんがありましようか。明日の保育案に沿つて材料を調べない保母さんがありましようか。それと同じ意味に於て、視診は必ず行われなくてはならないのです。否、子供の生命にもかゝわる大きな意味を持つて居ります。今日の保育のために、明日の保育のために、そして子供の眞の幸福のために……。

而も、慣れてくると、時間も極く短時間で済む様になり、子供たちの健康のわくが次第に鮮明になつて来て、却つて面白い位です。ほんの僅かな時間であつても、一人一人の子供に面と向うことが出来て、子供の特長をつかむよいチャンスとなることも、大きな利得であります。

早速、その方法を述べることにしましよう。視診がねらう大きな項目は四つあります。第一には病氣の有る無し。第二には元氣の良し悪し。第三には身體の清潔の良し悪し。第四には服装の清潔と適否。第五は健康保育の成果の判断。第一の病氣の有無であります。先づ咳について充分に注意しなければならぬことを申しませう。咳の原因は多くは風

邪でありますが、風邪も立派な傳染病であります。幼稚園の窓がこわれていて子供に寒い思をさせた。ストーブの燃えが悪かつた。それだから風邪をひいたというのは間違いります。寒さは誘因ではあります。が原因ではありません。ヴィルス（或いは濾過性病原體）が風邪を起させる本體で、この病原體は病兒の咳、くしゃみなど、しぶきに乗つて飛散し、それを吸つた子供たちが次々と罹つてゆくのです。その中で丈夫な子供は軽くて済みますが、弱い子供は氣管枝炎から肺炎となつて、生命にもかゝわることがあります。殊に冬には極めて注意が必要です。

「風邪位で休ませることは出来ない」「風邪にかゝわつては保育が出来はしない」と云ふ方があるかも知れませんが、之は恐ろしい考え方と云わねばなりません。お母さんにすれば我が子個人のことだけ、保母さんにしてみれば保育のことだけ頭がいつてしまつて、子供の本當の幸福を忘れてしまつてゐるのでしよう。

とは申しても實際には風邪の隔離は大變です。殊に保育所ではなかなか困難を伴います。世間の人々が既に「風邪ぐらい」という頭をもつていて、少し位の咳であつても隣近所の子供と遊ばせることは何でもなく考えていいのですから、お母さんは幼稚園・保育所へ平氣で出すことでしよう。子供が發熱する迄、或いは子供が自覺病狀を訴える迄、通わせることでしよう。或る保育所のお母さんでしたが、未だ熱がとれぬ子供を、「家においておくとうるさいから……」と

いつで連れて來たことがありました。保母さんがびっくりして私に連絡してくれましたが、咳は相當強く聽診器を當ててみると、ラツセルがきこえ、氣管枝の炎症が残つてしましました。

我が國の母親は、公衆衛生とか公衆道德の考えが極めて幼稚であることはしばしば經驗されることです。我が子さえよければ、我が子さえ丈夫ならば、という考へ方が實に根強いのであります。家の座敷を少しよごしても叱るくせに電車の中ではキャラメルの紙、南京豆の皮をすてても全然氣にしないのですから。又恐ろしい百日咳とわかついても、子供に苦痛がないと、平氣で幼稚園に出すのであります、近所の子供とも遊ばせることを何とも思つていません。この爲に大きな子供はまだしも、小さな乳兒にうつて死ぬ例が毎年あとをたちません。之こそ殺人罪に問われても仕方ないでしょ。

こうした母親を教育するために、幼稚園を休ませる様に、咳のある子供を連れ戻すことは、非常に効果のあることゝ思ひます。「風邪ぐらいで」と怒るお母さんもありましょう。すぐ近所の子供と遊ばせることであります。それでもかまわないのです。私達は、そうした衛生思想の低さを歎きこそそれ、決してそれにおもねつてはならぬのです。「風邪ぐらい」と思つてはならぬのです。

保育所では、母親が働きに出る人が多いからなかなか子供

を家に歸すことは難しいでしよう。出來れば別の室で保育したいものであります。施設がない、人手がない、——本當に貧乏は子供にとつて罪悪と感じますが、他の子供から隔離する考へを捨てるこども罪悪であります。正直に云えば私もこゝで進退谷まつてしまふのです。それではどうしたらよいのか?——この方面で努力されている保母さんや保健婦さんの苦心談やいろいろの工夫をきかせて頂いて、私も是非勉強したいと思います。どうか御意見をお寄せ下さい。

その一例として風邪の流行しているときには、三年保育、二年保育を問はず、それら子供たちを一諸にしたらどうでしょうか、どこか一と室を開けてやつて、静かな遊びをさせることが出来ないでしようか、……

咳の話から脱線しましたが、風邪にも増して恐ろしいのは百日咳であります。子供のあの苦ししさうな咳、顔を赤くして止めどなく出る、涙を流し體をかゞめるけれど、とめる術もない、その果に白い唾を吐く、食べたものまで出してしまつ——之を一度見たら、誰も百日咳にかけたくないと思うことでしょう。幼兒ではこの咳の爲に死ぬことは先づありませんが、之から肺炎を起して死ぬ子供はまだ跡を絶ちません。潜んでいた結核(後述)が俄かに進むことも稀ではありません。恐ろしい病氣であります。

この病氣は一度見ればすぐ分る、と申しましたが、それは最盛期といつて最も症狀のはげしい時のことです、初めは全く風邪の咳と變りがありません。醫者ですら迷うことがしばし

ばかりであります。ですから風邪の咳といつても油斷することは出来ません。「咳」をなどとはならぬことは、この場合にも嘔嗆ります。

軽い咳と思つていたのが、日増に數もふえ、強い咳に變つて來ます。もつとも日中は少く夜とか曉方に多く出るのが特長ですが、ひどくなるにつれて、日中でもおかましく出ます。一寸走つたあとか、泣いたあとに引續いて出ます。

まだ百日咳とはつきりしない中にも、傳染力は強いのですから誠に困ります。次から次と他の子供に咳をさきかけ、その子供たちは病原菌をもらいます。この病原菌は顯微鏡でもよく見えます。この菌が體に入ると、早いときには二三日、おそらくとも二週間ほどで咳がはじまります。潜伏期であります。そして最盛期を終えて三週間は他の子供にうつる恐れがあります。

どうか咳を恐れて下さい。風邪といへば百日咳といへば、子供の生命を奪う恐ろしい肺炎へ、子供等を脅かす大ボスであります。どうか咳の子供を隔離又は家に歸して下さい。子供が澤山いればいる程危険は大きく死亡率も高いであります。

この他、咳の出る病氣で、自覺症狀が少く、幼稚園・保育所へ來る場合があります。一つは肺門淋巴腺炎の場合、一つは喘息性氣管技炎であります。肺門淋巴腺炎については結構のお話をするとときに詳しく申しませう。ツベルクリンも陰性であるのに、氣候の變り目とか少し埃っぽい日に、胸の奥から出る様な咳をする子供、之が小兒喘息とまでゆかないが、

その様な體質を持つた子供であります。之は體質ですから、他の子供にうつる様なことはありません。之と診斷することは、醫者でもむづかしいことがありますから、母親から既往歴をきくなり、園醫と相談するなりして、一、二ヶ月の觀察を要することがあります。

之で咳のお話を終えますが、序でに申しておきたいことは、風邪氣味、ということであります。風邪氣味といえば、風邪の引きかけ、或いは軽い風邪といへば、之が大問題です。というのは、總て恐ろしい傳染病の初期は風邪と少しも變らないからであります。風邪と思ついたら百日咳というお話は既にしましたが、ジフテリア・はしか・背臍小兒癪・痙攣など、はじめの一、二日は風邪と區別のつかないことがしばしばあります。而も風邪といふ病氣がさらにあるだけに、困るのです。この點からいつても、風邪らしい症狀を、決して馬鹿にしてはならないことが、よく分つて頂けたと思います。

次には目の異常について申しましよう。その大きなものは結膜の充血で、昨日まで何ともなかつた子供が目を眞赤にしてやつて來たときは、はやりめ即ち急性結膜炎と思うべきでしょう。之は忽ち他の子供にうつりますから、すぐに家に歸つて治療を始める様、すゝめるべきです。そのまゝにしておくと角膜に傷がついて、ものがはつきり見えなくなることも教へてあげましょ。又、家庭でも洗面具を別にすることを

もすゝめ、子供から大人にもうつることを注意しましょう。
専門醫の證明があるまでは登園させではありません。

たまたま結膜をめぐつてみると、ぶつぶつが見付かることがあります。子供自身には大した自覺症狀はありません。之がしばしばトラホームであることがありますから、必ず醫者に見せなくてはなりません。トラホームと決まれば、之はなかなかしつこい傳染病ですから、幼稚園に来ることを止めさせう。洗面具や手拭など嚴重に別にしていても、お遊戯で手をつないだり、積木その他共同でつかうものが多いうから、幼稚園・保育所で児童と一緒にしておくことは無理といわねばなりません。他児にうつすことをはゞかるならば、必ず休ませるべきであります。放置しておくとひつゝれて目の形が變つたり、目が見えなくなつたり、逆まつけになつたり、後々まで祟りますから、早期治療を始めることをすゝめます。

トラホームによく似た病氣に、滻胞性結膜炎と春季カタル

とがあります。兩方とも結膜にぶつぶつの出來る病氣ですが傳染しません。軽くめやにの出ることが多いのですが、悪化することなく、放つておいても自然に癒ります。然しトラホームとの區別は、醫者でもむづかしい位ですから、保母さんが之を決めるとは大變危険です。専門醫の指圖に従うべきでしよう。この他、はしかのときに目が赤くなつて、めやに出ることは、よく御存じと思います。大概は熱が出ますから、幼稚園や保育所に来ませんが、稀に熱が出ない前に之が現れることがありますから、注意を怠つてはなりません。

目のふちがたゞれている子供がしばしば見つかります。之には濕疹が多く、體質ですから勿論他の子供にうつる心配はありません。一般にひ弱な子供に多いから、少しでも丈夫にする工夫をしたいものであります。こうした體質については後に詳しくお話ししたいと思つて居ります。「めぼし」といつて、白眼に圓い結節の出來ている子供があります。このほしを圍んで血管が赤くはれています。いたいでしよう？ と子供にきくと恐らくうなづくでしよう。この原因はまだよくわかつていませんが、結核に關係が深いことは大體認められています。即ち結核の第二期に相當し、むづかしい用語では結核アレルギー性の病氣といえませう。大部分ツベルクリン反應が陽性です。レントゲンをとつてみると肺門に陰が出ていることも多いです。ですから要注意として、子供の幼稚園・保育所に於ける活動をよく見守つてやる必要があります。

以上で目の異常についてお話しましたが、こゝで再び問題となるのは、傳染病を持つた子供を保育所で發見した場合の後仕事であります。多くの母親が働きに出なければならぬ體でありますから、子供を家に歸すことが出來ない事情が多いでしょう。又、その日一日でも頂らねばならぬ場合もあるでしょう。その爲には、どうしても隔離室を設けることが必要であります。隔離室を設けなくては、保育所の健康管理は到底無理といわねばなりません。之ら施設について後述するとして、次回は視診の中、ふきでもの即ち發疹について述べることにいたします。(つづく)